

委員会所管事務調査テーマ 「地域内経済の循環」に関する政策提案

飯田市議会 産業建設委員会

はじめに

飯田市においては、人口減少・少子高齢化時代にあつて、リニア中央新幹線開通・三遠南信自動車道の早期全線開通を見据え、「いいだ未来デザイン 2028」の確実な推進が望まれています。現在、後期計画（令和7～10年度）の原案が示されており、将来の飯田市のあるべき姿を見据えた、中・長期的視点に立った施策展開、その市政運営に期待をすることです。

私たち産業建設委員会では、当委員会の所管する産業経済の振興を基本とし、環境文化都市を掲げる飯田市として、地域資源の活用を視野に入れながら「地域内経済の循環」を所管事務調査のテーマとし、農業、林業、商業、工業、観光等、さまざまな分野を学びながら、令和5年度から委員会として調査研究活動を行ってまいりました。

地域内経済の循環とは、基本的に地域に「生産・販売」「分配」「支出」という3つの要素があり、この中でお金が回っていく仕組みであり、「生産・販売」から生まれた所得が地域の住民や企業に「分配」され、分配された所得を用いて「支出」される、支出の部分で例えば、市外の方に飯田の物を買ってもらい地域の中にお金を入れてもらうこと、そして私たちが域産域消などにより地域の中からもお金を出さないこと、そうすることにより生産・販売へ還流する額が増加し、地域内経済が好循環化していくものと認識しています。

「地域内経済の循環」、本来このテーマは幅が広く、そして内容も深いものと認識していますが、将来の飯田市を見据えた時、とても重要なことということは、誰もが感じていることと思います。市民の皆さんが普段の生活の中で取り組むこと、企業や生産者の皆さんが取り組むこと、そして行政が支援すること、少しずつでも、みんなで意識し、行動していける環境をつくっていくため、次の4つの項目について政策提案いたします。

なお、本提案に合わせ、これまで3つの要素を基本とし取り組んできた、2年間の議会報告・意見交換会で市民の皆さんから聴かせていただいた普段の買い物の現状や域産域消・ブランド化に対する意識などをまとめたアンケート結果、委員会で実施した市内スーパー24店舗の踏査結果についても資料提供させていただきます。

1 政策提案事項

(1) 消費者・企業・生産者の意識啓発について

地域内経済の循環の推進に向け、消費者の行動変容を促すだけでなく、企業や生産者が地域内経済の循環の意識を高められるような取組を展開されたい。

(2) 地域経済循環の実態調査の必要性について

(株)キヌヤさんの地元である島根県益田市では、飲食業界を中心に「地域経済循環調査」を行っていた。具体的な品目ごとの現状分析がされており、今後の方向性を考えていく上で、大変重要な視点であると感じた。飯田市も益田市に習ってそうした業界の実態調査から取り組まれたい。

(3) 店舗等におけるポップ等による意識啓発について

域産域消を更に推進するため、踏査結果からもスーパー24店舗中、20店舗が「地元産コーナー」を設置している現状から、飯田市共通の看板やポップ等を作成しPRしていただくことで、消費者、企業、生産者の意識向上につなげられたい。

(4) 新たなブランド化の仕組みづくり

令和6年7月、山口県岩国市のブランド化の取り組みを視察させていただいた。岩国市には、9つの代表するブランド（岩国寿司、由宇とまと、天然鮎、高森牛、岩国れんこん、岸根ぐり、こんにゃく、わさび、地酒）があり、これを軸として、地酒は5つの酒蔵の銘酒をブランディング、そしてその日本酒のつまみをブランディング（つまんでちょんまげ）といったように、ブランディングの形が2層3層になっていた。まずは軸となるブランドがあり、地域資源のブランド化、そして新商品のブランド化など、ブランド化の方向性を推進協議会で決定し、PRパンフレットも工夫されたものが作成されており、素晴らしい取り組みと感じた。

飯田市においても更なるブランド化の取り組みについて、例えば、地域資源を活用した新たな商品のブランド化にチャレンジできるような仕組みを検討されたい。

2 取り組みの経過（別紙1）

3 添付資料

- (1) 令和6年度議会報告・意見交換会 第3分科会資料（令和5年度集計結果）
（別紙2）
- (2) 市内スーパー24店舗 産業建設委員会 踏査結果
（別紙3）